

[056] 史淵表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2335143>

出版情報 : 史淵. 56, 1953-03-15. Faculty of Literature, Kyushu University
バージョン :
権利関係 :

史學懇話會

第五三回 一月二十一日(水)

多武峯の一考察

日本に於ける反帝國主義思想の形成過程

—幸徳秋水を中心として—

第五四回 二月三日(火)

古代國家に於ける氏・姓

中世に於ける尾道

山下孝二

五島辰夫

平野博之

前田元重

國史學科の動向

卒業生送別會

二月八日一時より三畏閣に於いて三月卒業の舊制五島辰夫、島津豊幸、杉谷昭、前田元重、三宅英利、山下孝二、及び新制の平野博之の七氏の送別會を行つた。

竹内、西尾、檜垣三先生を始め全員出席して七氏の營雪の功成れるを祝福し、今後一層の御健闘を衷心より祈つて五時散會した。

東洋史學科の動向

○第廿八回研究會 (一月三十一日)

「唐初軍制に關する一疑問」

菊池英夫

○第廿九回研究會 (二月二十八日)

「總領所の由來について」

山内正博

西洋史學科の動向

西洋史學科は二月二十二日午後五時より三畏閣に於いて、卒業の加藤知弘、古森利雄、外村民彦、山浦康孝四君の豫餞會行つた。小林教授、今來教授、服部助教、藤原講師を中心に加人員十四名で、終始和やかに盛會であつた。四君の多幸と健を祈る次第である。

二十七年度史學科卒業論文題目

國史學科

中世に於ける尾道

明治末期の政治思想について

明治意識論序説

—文明開化期の思想史的研究—

日本に於ける中世法の形成過程について

長崎奉行考

—特に長谷川左兵衛藤廣に就いて—

多武峰についての一考察

古代國家における氏・姓について

—特に大化後の諸問題—

前田元重

五島辰夫

島津豊幸

杉谷昭

三宅英利

山下孝二

平野博之

東洋史學科

南宋鎮撫使について

山内正博

西洋史學科

エリザベス朝の穀物市場

デカプリストの性格について

—特にペステリの思想を中心として—

カルヴァン時代のジュネーヴに於ける

宗教裁判について

—特に國家と教會の關係—

産業革命前後に於ける勞働者

の狀態について

—クラツバムとハモンド夫妻の論争を中心として—

加藤知弘

古森利雄

外村民彦

浦康孝

編輯後記

本會顧問長壽吉、重松俊章、長沼賢海三先生には、すでに古稀を越えられたが、非常にお元氣で、學界のため健闘せられている。古稀記念の事業を計畫しながら、出版事情のため實現しえなかつたので、ここに三先生の玉稿をいただいて、本輯を飾ることとした。(小林)